

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472101235
法人名	社会福祉法人 伸こう福祉会
事業所名	グループホーム クロスハート二階堂・鎌倉
訪問調査日	平成19年11月16日
評価確定日	平成19年12月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1472101235
法人名	社会福祉法人 伸こう福祉会
事業所名	グループホーム クロスハート二階堂・鎌倉
所在地	248-0002 鎌倉市二階堂267-67 (電話) 0467-61-3345

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成19年11月16日	評価確定日	平成19年12月28日

【情報提供票より】(平成19年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ 平 17年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	15 人	常勤 4 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 11.4 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	82,000 円	その他の経費(月額)	59,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (1,160,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 /無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月10日現在)

利用者人数	15 名	男性	2 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	62 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公田クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームの経営母体は社会福祉法人伸こう福祉会であり、伸こう福祉会は関連従業員300名余の大きな組織でグループホーム7つの他、特養、ケアセンター等を持ち、確たるポリシーを持ってケアを展開している。法人理念は「全てのよきものを人生の先輩たちにささぐ」という崇高なポリシーを持ち、グループとして一貫している。そのポリシーはホームに根付いている。また基本方針が「おしゃれに、おいしく、おつきあい」であり、靴を履いたままの、ハイセンスなインテリアの生活である。副理事長のホームのポリシー、ホーム生活への信念とこだわりがホームの全体を包んでいる。ケアについての特長は医療連携体制加算取得に際し、ご家族と「終末期はこうしてむかえさせたい」と言う話し合いをし、24時間体制の確保を行い、状況が変化した場合には医療、家族、ホームの3者で話し合い、ご利用者中心の対応に努めている。運営推進会議や工事等の場合の事前のご挨拶などこまめな対応の成果が出て、菊展に出品した鉢を展示会後にお持ち頂きホームに飾らせて頂くなど良い関係も生まれている。鎌倉市も協力的で運営推進会議には土日でも出席して頂いている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>特に指摘事項は無かったが、この1年間は介護計画の質の向上に取り組んだ。管理者がケアマネジャーであり、スキル向上を目指して、地域包括支援センターのケアマネジャーが中心となったケアマネジャー研究会に参加、またホームの介護計画についてはセンター方式を導入し、職員の気付きを記入し介護計画の改善に努めた。また、介護については法人全体で「事例集」を作成中であり、それに参画するなど介護に科学的な側面も積極的に取り入れる取り組みを実施した。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については基本的には各ユニットでユニット長を中心にまとめ、それをホーム長が中心となって各ユニットと一緒にまとめた。評価の必要性についてはカンファレンスで十分に説明し、理解をさせ、プロセスでの気付きや評価の指摘事項については改善計画を立てて実施して行く予定である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は既に4回実施している。開設当初、一部の住民の反対で全室に設置出来なかったエアコンの全室設置が運営推進会議の了解に基づく自治会の同意、本部を交えた一部反対住民との話し合いを経て全室設置が実現出来た。運営推進会議の自治会や鎌倉市のバックアップを頂いた成果であり、ホームの努力の賜物である。運営推進会議のメンバーは自治会長、民生委員、鎌倉市職員、ご家族それにホーム関係者、伸こう福祉会本部の代表で行っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族は良く来訪される。毎月の定期的なお便りや来訪時にご利用者の近況をお話し、情報の共有化に努めている。今回、運営推進会議の中でエアコンの全室設置についてホームや市役所が云えない本音を率直に披露し、入居のご家族を思う真意がメンバーを動かし、エアコンの全室設置にこぎ付けたプロセスはホームとご家族とのベクトル合わせに大きな力となった。今後もご家族との絆を大切にしていきたい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との密着度向上については運営推進会議の果たした役割は大きい。鎌倉市の担当者は土日でも出席を厭わず、地域との仲介、自治会との連絡などを実施して頂いた。ホーム長も小まめに近所とのお付き合いを行い、前述の菊の例や、散歩中に庭の花を切って頂いたり、順次、良好な環境が出来ている。近くの訪問介護事業所との連携なども出来ははじめている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「おしやれに おいしく おつきあい」を常に拠り所において日々のケア・業務にあたっている。地域との密着度向上については運営推進会議の果たした役割は大きい。鎌倉市の担当者は土日でも出席を厭わず、地域との仲介、自治会との連絡などを実施して頂いた。ホーム長も小まめに近所とお付き合いを行い、前述の菊の例や、散歩中に庭の花を切って頂いたり、順次、良好な環境が出来ている。近くの訪問介護事業所との連携なども出来はじめています。	○	古い職員には充分理解してもらっているが、新入職の職員には個別に十分な時間をとって理念の説明を行っている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常勤職員は本部研修で理念を把握し実践しているが、非常勤職員の交代時などでは新入職の職員は法人の理念を理解していないケースもある。		玄関にも掲示してあるが、ミーティングや折にふれ理念を職員全員にわかりやすく浸透させていく。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年は自治会にも加入して4月の総会にも参加した。回覧板や共同募金にも協力している。地域のお祭りにも参加することが出来た。今後は地域の運動会にも参加したり小学校や保育園とも交流を持ちたい。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設年度からの一最大の課題である地域との良好な関係の構築という点ではこの夏市役所・法人本部・ご家族とも連携をはかり辛抱強く近隣との交渉を重ね悲願であった全居室冷房設置を遂行した。		今回のプロセスをふまえ新たな信頼関係を構築していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	すでに第4回目を10月13日に実施した。この会議のメンバーが冷房設置の推進力支えになって現場を支えてくれた。	○	今後は地域の運動会にも参加したり小学校や保育園とも交流を持ちたい。ホームの行事などに合わせた会議の開催などメンバーも近隣の方にも参加いただくなどい多岐な顔ぶれを集めたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	鎌倉市の担当の職員とはいつもメールや電話、直接窓口等で連絡を取り合い特に近隣との交渉には大きな力となってくれた。	○	今後は近隣や二階堂地域全体の力になれるような地域密着型のホームにしていきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的にご様子や金銭管理(領収書・請求書を含む)等お便りを郵送している。変化がある時は当然その都度電話やメールでの連絡している。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要悦明書と玄関脇に苦情担当者を明記してある。それだけでなく常にお便りや来訪時に何か意見や気になる事はないかこまめに尋ねている。	○	今後は運営推進会議だけではなく家族会も開催して意志疎通を図り苦情にも迅速に対応していきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人本部は人手不足の事業所へ職員を異動させ、要員の確保は維持して頂いている。利用者への配慮はホームで努力する他ないと考え努力している。		法人本部の長期的・計画的な視野にたった人事異動を希望する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤職員は実践者研修やリーダー研修を順次受講しているが非常勤職員は時間的問題もあって研修会に参加機会が少なかった。	○	勤務調整でヘルパー2級資格を取得した職員も多く、今後は計画的に全職員を内外の研修に参加させ、全体のレベルアップを図って行きたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護事業所からヘルパーを派遣してもらうことがたまにある。何かの時はお互いに協力できるような交流にもなっている。		地域にグループホーム連絡会の支部会があつて情報交換の場があると良い。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が入居になかなかふみきれない時は試しに1週間ほど入居いただきご本人に入居の決定をしていただいている。ご家族のご本人の意向で週に1回は自宅に戻られる利用者もいる。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「もし自分が利用者の立場だったらどう思うか？」を念頭において関係を築いている。出来る事は出来る限りしていただきご本人の好きな事、喜ばれる事を見つけ共に喜びを感じている。日常の会話から人生の先輩としての教訓をいただく機会も多い。家事手伝いなど得意分野を活かして意欲を引き出している。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の日々の生活リズムを把握し職員はなるべく本人の希望に添う生活を送れるように支援をしている。出来るだけ自然な会話、本音トークを引き出せるよう努め本当の思いや希望など聞き出している。	○	職員全員でのアセスメント記入などもっと掘り下げて本人理解に努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントシートやミーティングでの意見交換、本人や家族の意向を取り入れたケアプランを作成している。	○	個別のケアカンファレンスをもっと頻繁に行いチーム全員でケアプラン作成に携わっていききたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化の際は現状に即したケアプランを関係者と相談した上作成して同意・サイン・捺印いただいている。場合によっては介護度区分変更の申請も行なっている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	選挙や地元のお祭りなどにはご家族の協力もいただき可能な方は選挙投票やお祭り参加などしていただくよう機会を作っている。自宅に一旦帰宅する利用者に特に日数制限は加えていない。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは訪問看護ステーションを通して24時間連絡がとれる体制にはなっているが、場所柄、緊急時は救急病院へ行く事が多い。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化についての文面が重要説明書に掲載されて双方で確認をしている。重度化に向けて関係者と早い段階から良く話し合いを重ねる必要があり、ケースバイケースで方針を決めている。		ホームとして出来る範囲、あるいはできない範囲を明文化していきたいと考えている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家庭的な雰囲気の中でも本人の尊厳を傷つけるような慣れ慣れしい声かけは行なっていない。記録等もプライバシーに配慮した記述やその取り扱いにも気を配っている。家族以外からの問い合わせ、ご様子の確認には応じていない。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく希望にそった対応をしているが重度化が進み、最近では職員は残念ながらADLに沿ったケアをせざるを得ない状況が増えている。		人員配置の工夫も含めて個別対応可能な勤務体制を検討する必要がある。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる範囲内で食事の準備、片づけ等を職員と楽しい雰囲気で行なっている。盛り付けや彩にも配慮し楽しい時間となるように心がけている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員配置に配慮しながら出来るだけ本人の希望に添うように努めている。入浴表を作成して全員が週2回は入浴をたのしめるよう声かけの工夫等おこなっている。入浴前のバイタルチェックも怠らない。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方に合わせて掃除・後片づけ・散歩・買物・おしゃべり・外食・フラワーアレンジメントなど参加していただけるようアセスメントを行ないケアプランで実施している。	○	アセスメントを充実しているいな今まで見えなかった支援方法を職員全員で見つけたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほとんど毎日散歩を含め買物や外出の同行していただいている。もちろん本人の希望を尊重している。またその事を希望されている家族も多い。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームは山に囲まれた住宅地内にあり、道に迷ったら大変危険。最近では防犯上の心配もあるのでご家族に了解を得て鍵は施錠している。居室の鍵を中からかける人もなかにはいる。	○	非常口には警報ベルを取り付け鍵をかけない工夫も試みている。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を定期的実施している。近隣にも案内して参加を呼びかけた。	○	地域全体の防災に自治会などと協力して行きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れたメニューを心がけ毎食時残食料・水分摂取量を記録している。食事時間はできるだけ個別に対応できるよう努力をしている。なお禁忌食品のある人へは個別メニュー、嚥下困難の人へはミキサー食を手作りしている。必要な方には管理栄養士がいて個別指導を行なうことが出来る。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部には季節の花や写真を飾って潤いのある空間を演出している。コンテスト出品後の菊を毎年貸し出してくれるボランティアさんがいて、落ち着いた空間で職員も利用者も穏やかに生活ができています。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年慣れ親しんだ家具や思いで深い品々を配置することによって落ち着いた安心感のある生活空間を家族の協力も得て実現している。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム クロスハート二階堂・鎌倉
所在地 (県・市町村名)	248-0002 鎌倉市二階堂267-67
記入者名 (管理者)	高橋 まり子
記入日	平成 19 年 11 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「おしゃれに おいしく おつきあい」を常に抛り所において日々のケア・業務にあたっている。	○	新入職の職員にも個別に十分な時間をとって理念の説明を行っていききたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常勤職員は本部研修で理念を把握し実践しているが非常勤の一部の職員は法人の理念を理解していない。	○	玄関にも掲示してあるがミーティングや折にふれ理念を職員全員にわかりやすく浸透させていききたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	お便りやお知らせをその都度配布しているが地域に理念をお知らせしたことはない。	○	運営推進会議等でこちらから積極的にアピールして「おしゃれに おいしく おつきあい」を実践していききたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩をしていると気軽に声をかけて下さる方も多いが今だに理解をしめさない方々もいる。なかなか気楽にとはいかないがホーム内での行事などのお知らせをプリントやポスター等で近隣に案内している。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年は自治会にも加入して4月の総会にも参加した。回覧板や共同募金にも協力している。地域のお祭りにも参加した。	○	今後は地域の運動会にも参加したり小学校や保育園とも交流を持ちたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生委員を通じて地域の一人暮らしの方やグループホーム入居を希望されている方の情報をいただき入居につなげている。	○	地域の高齢者相談や家庭介護教室など地域のニーズをさがしていきたい。
---	--	---	---	-----------------------------------

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設年度からの一最大の課題である地域との良好な関係の構築という点ではこの夏市役所・法人本部・ご家族とも連携をはかり辛抱強く近隣との交渉を重ね悲願であった全居室冷房設置を遂行した。	○	今回のプロセスをふまえ新たな信頼関係を構築していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	すでに第4回目を10月13日に実施した。この会議のメンバーが冷房設置の推進力支えになって現場を支えてくれた。	○	今後は地域の運動会にも参加したり小学校や保育園とも交流を持ちたい。ホームの行事などに合わせた会議の開催などメンバーも近隣の方にも参加いただくなど多岐な顔ぶれを集めたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	鎌倉市の担当の職員とはいつもメールや電話、直接窓口等で連絡を取り合い特に近隣との交渉には大きな力となってくれた。	○	今後は近隣や二階堂地域全体の力になれるような地域密着型のホームにしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実施していない。	○	今後は勉強会や研修会にも参加して職員を啓発していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	この件で学ぶ機会は未だない。決してあってはならないことと肝に銘じて日々業務にあたっている。利用者の変化特に傷・アザ等がないか常に注意深く気をつけている。	○	同上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族や入居予定者の納得いくまで説明して何度でも見学に来ていただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は漠然とした不満も含めて苦情を直接職員に訴えてくる方もいるが言いづらい事等は家族や傾聴ボランティアから聞くこともある。	○	利用者や家族と定期的な面談を持ちたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的にご様子や金銭管理等・(領収書・請求書を含む)のお便りを郵送している。変化がある時は当然その都度電話やメールでの連絡は怠らない。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要説明書と玄関脇に苦情担当者を明記してある。しれだけでなく常にお便りや来訪時に何か意見や気になる事はないかこまめに尋ねている。	○	今後は運営推進会議だけではなく家族会も開催して意志疎通を図り苦情にも迅速に対応していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は随時管理者は聴くように心がけている。その後ミーティング等で反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の重度化によって人員配置を柔軟に行なって手が足りない早朝時間帯に増員をしている。	○	法人本部とも相談し場合によっては夜勤帯の複数配置も柔軟に考えていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人本部は人手不足の事業所へ職員を異動させるので利用者への配慮はないように思われる。	○	法人本部の長期的・計画的な師やにたつての人事異動をお願いしたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み	常勤職員には定時研修のみ、が 研修の機会を設けて、		

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤職員はは実践者研修やリーダー研修を順次受講しているが非常勤職員には今年度各種の研修会に参加機会は殆ど与えられなかった。勤務調整でヘルパー2級資格を取得した職員は多い。	○	今後は計画的に全職員を内外の研修に参加させ全体のレベルアップをしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護事業所からヘルパーを派遣してもらっている。何かの時はお互いに協力できるように交流にもなっている。	○	定期的な情報交換の場を行政にも協力いただき作ってきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	今年度から常勤職員のリフレッシュ休暇の制度が始まり好評。日常の業務では実質的な休憩時間や休憩場所がほとんどない。	○	ミーティング等でストレスの原因について意見交換をしたり個別に面談して対処していきたい。休憩スペースもなんとか作りだしたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員のモチベーションを高めるような行事や外出の企画や個別ケアの新しい視点での取り組みの提案を呼びかけている。	○	各個人の職員の努力や実績をきちんと定期的に評価していきたい。

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話だけでなく自宅や入院先までまめに足を運び、パンフレットやスナップ写真を見せてわかりやすく本人や家族が納得いくまで説明し見学に来ていただいている。体験入居されてからお返事をいただくことも多い。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご高齢の家族も多いがわかりやすい言葉や文章でせ地名し困っている事、不安にかんじている事にたいしてはできる限り誠実な対応を常に心がけている。	○	終末期医療についてはその必要時に相談させていただいているが法人としてのがドラインをあらかじめはっきりとさせておきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特別な見守りや通院介助等での他サービス利用(介護保険外)も頭に入れ対応をしている。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が入居になかなかふみきれない時は試しに1週間ほど入居いただきご本人に入居の決定をしていただいている。ご家族のご本人の意向で週に1回は自宅に戻られる利用者もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「もし自分が利用者の立場だったらどう思うか？」を念頭において関係を築いている。出来る事は出来る限りしていただきご本人の好きな事、喜ばれる事を見つけ共に喜びを感じている。日常の会話から人生の先輩としての教訓をいただく機会も多い。家事手伝いなど得意分野を活かして意欲を引き出している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	「もし自分が利用者の立場だったらどう思うか？」を念頭において関係を築いている。出来る事は出来る限りしていただきご本人の好きな事、喜ばれる事を見つけ共に喜びを感じている。日常の会話から人生の先輩としての教訓をいただく機会も多い。家事手伝いなど得意分野を活かして意欲を引き出している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	「もし自分の両親がこの事業所に入居していたら家族として何を求めるだろうか？」を常に考え行動している。お誕生会、各種行事への家族へのお誘いを光にし交流の中で共に楽しみながら関係を深めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の記憶や家族からの聴き取りから行きたい場所や逢いたい人を探りだすよう努めている。	○	センター方式のアセスメントを有効に使い今まで生きてこられた足跡を整理して本人理解にさらに努めたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は利用者同士の関係を把握し、食事やお茶の時間に遠慮なくくつろげるような席の配置を考えている。職員が適所に間に入り難聴の方等のコミュニケーションのバックアップにはいつている。外出時などの参加メンバーも気が合う同士をなるべくまとめてお誘いしている。	○	穏やかな雰囲気を保つように職員は努めているが利用者が一緒に作業や楽しめるようなレクリエーションを試みたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	季節のあいさつの手紙のやりとりを継続し、その後のご家族の体調などを気遣いしている。法人の追悼行事(追悼ミサ)のお知らせを送付している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の日々の生活リズムを把握し職員はなるべく本人の希望に添った生活を送れるように支援をしている。出来るだけ自然な会話、本音トークを引き出せるよう努め本当の思いや希望など聞き出している。	○	職員全員でのアセスメント記入などもっと掘り下げて本人理解に努めたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時アセスメントではなるべく詳しくそれまでの生活歴を本人や家族にもうかがっている。その後も家族来訪時などにご利用からのホーム内での情報も提供し相互にエピソードを語れるような関係を築く努力をしている。	○	ご家族や医療関係者を交えたケース会議も今後は必要に応じ実施したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式のアセスメントシートを利用して日中・夜間の様子を記録し必要な方には排泄記録や24時間の行動記録などを残し医療との連携にもつなげている。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントシートやミーティングでの意見交換、本人や家族の意向を取り入れたケアプランを作成している。	○	個別のケアカンファレンスをもっと頻繁に行いチーム全員でケアプラン作成に携わっていききたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化の際は現状に即したケアプランを関係者と相談した上作成して同意・サイン・捺印いただいている。場合によっては介護度区分変更の申請も行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアノート・バイタル排泄チェック表・24時間生活変化シート等の記入で情報を共有しながらケアプランにつなげている。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	選挙や地元のお祭りなどにはご家族の協力もいただき可能な方は投票や参加していただきよう機会を作っている。自宅に一旦帰宅する利用者に特に日数制限は加えていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お話相手のボランティアとして4名の方が各方面から定期的に訪問くださってる。その他にも地元のハワイアンバンドやギターの弾き語り、日本舞踊などの訪問も受けて楽しみに過ごせる行事がある。消防署の協力も得て消防避難も定期的実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他事業所に現在ホーム内の個別援助(見守りとモーニングケア)を依頼している。お互いに地域の福祉向上に貢献したい気持ちがある。仕事をしたい人と仕事を頼みたい人との地域での需要と供給が事業所の壁を乗り越えればかなり一致することがわかった。	○	地域全体の高齢者見守りシステムを行政と相談して提案したい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ協働はしていないが空室状況は情報交換している。	○	同上
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは訪問看護ステーションを通して24時間連絡がとれり体制にはなっているが緊急時は救急病院へ行く事が多い。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月1回の精神科往診を受けている利用者も多い。変化には往診時以外にも対応してお薬を処方してもらえる関係。介護上の的確なアドバイスもおおいに参考になっている。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携による週1回の看護師の訪問で利用者の体調変化にいち早く体応が可能になって家族からの信頼も得ている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は病院・ソーシャルワーカー・ご家族と密に連絡をとって退院に向けての事前準備に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けて関係者と早い段階から良く話し合いを重ねる必要があるが今のところケースバイケースで方針の共有はされていない。	○	入居時に重度化についての文面が重要説明書に掲載されて双方で確認をしているが、家族会等でその都度それぞれの家族の考えを確認しながらこちらの出来る範囲、あるいはできない範囲を明文化していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「できること・できないこと」はその場の状況によっても違ってくるがその都度医療と連携し家族や本人の気持ちを尊重した対応をこころがけている。	○	終末期医療・看取りについて職員だけでなく家族と一緒に学ぶ機会を設ける。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	状態変化によってもなるべく住み替えないでグループホームで継続して生活できるように入院時等情報交換を重ね納得いくまで話あっている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底	家庭的な雰囲気の中で、本人の尊厳を回復するよう配慮		

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家庭的な雰囲気の中でも本人の尊厳を傷つけるような慣れ慣れしい声かけは行っていない。記録等もプライバシーに配慮した記述やその取り扱いにも気を配っている。家族以外からの問い合わせ、ご様子の確認には応じていない。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個別の方法でコミュニケーションをとり、着る物や食べ物、飲み物など本人の思いや希望・好みを聞きだしている。意欲を引き出すためにも出かけてみたい場所など声かけの工夫により聞き出す努力をしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく希望にそった対王をしているが重度化が進み最近では職員の見守りの都合を優先してしまうこともあることは事実。	○	人員配置の工夫も含めて個別対応可能な勤務体制を作りたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は本人の望む店、馴染みの店に希望の曜日・日時に出かけられるように努めて調整している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる範囲内で食事の準備、片づけ等を職員と楽しい雰囲気で行なっている。盛り付けや彩にも配慮し楽しい時間となるように心がけている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	1人1人別メニューは難しいが全体的には個人の好みに合わせた献立をめしあがって頂いている。お酒、たばこはホームでは利用者にはだしていない。(今のところそのようなリクエストはない。)		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できる限りその人の意志を尊重している。排泄の自立能力を高めるよう支援し、失敗しても次の排泄に安心して安心できるような対応に努めている。排泄チェック表に記入し時間、間隔の把握を行なっている。		
	○入浴を楽しむことができる支援	本人の希望に沿うように努めているが職員配置とばり		

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に添うように努力はしているが職員配置上どうしても希望にそえない時間帯もある。入浴表を作成して全員が週2回は入浴をたのしめるよう声かけの工夫等おこなっている。入浴前のバイタルチェックも怠らない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	清潔な寝具、ベッド周囲の安全にも気をつけている。入床前や府民事少しリラックスできるような声かけを行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方に合わせて掃除・後片づけ・散歩・買物・おしゃべり・外食・フラワーアレンジメントなど参加していただけるようアセスメントを行ないケアプランで実施している。	○	アセスメントを充実しているいろいろな今まで見えなかった支援方法を職員全員で見つけたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが自分でおこづかいをお持ちの方も多。外出時など好みに応じておやつやお土産購入をすることによって生活にはりを与えて社会福祉法人とのつながりを実感してもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほとんど毎日散歩を含め買物や外出の同行していただいている。もちろん本人の希望を尊重している。またその事を希望されている家族も多い。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別外出計画を立てて鎌倉お寺めぐりやみかん狩り、動物園ハイキング等を実施した。全体外出で出かけた箱根の老舗ホテルまでの日帰りバスツアーも好評だった。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける必要がある時は職員が支援している。手紙の投函は家族に確認の上のこともある。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	理念に基づき来訪者をいつでも大切にお迎えすることが職員の心得となっている。玄関の生花も来訪者を和ませている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重度化が進み転倒や抜管のリスクが高い利用者もいる。センサーや見守りの工夫を行い対処をしている。	○	職員の介護技術や意識を高めていく研修や勉強会を行なって行きたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームは山に囲まれた住宅地内にあり、道に迷ったら大変危険。最近は防犯上の心配もあるのでご家族に了解を得て鍵は施錠している。居室のか鍵は中からかける人もなかにはいる。	○	非常口には刑法ベルを取り付け鍵をかけない工夫も試みている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	転倒の危険があり居室にセンサーを取り付けた方には本人にわからないような自然な体王で居室の様子を伺いトイレなどの介助を行なっている。	○	今後もセンサー対応者が増えると予想されるがあくまで機械なので先日の台風の停電時は見守りに影響が出て危険だった。緊急時の人員確保の体制も整備したい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具などは本人の要望時にすぐだせるよう事務所で預かっている。はさみなどを保持してる方はその保管場所をチェックをしている。	○	認知レベルの低下で本人のプライドを傷つけないような声かけによって保管させてもらっている。職員全体でシートを作成するなど預かっている物品の情報を共有していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員に対する訪問看護師からの指導や消防訓練を通じて知識を高める努力を行なっている。	○	非常時に備えて救急救命の講習会にも職員を参加させたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訪問看護師より個別指導を受けているが応急手当ができる職員は少ないと思われる。	○	職員の介護技術や意識を高めていく研修や勉強会を行なって行きたい。研修として応急処置や救急救命の勉強会を定期的実施して行きたい。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を定期的の実施している。近隣にも案内して参加を呼びかけた。	○	地域全体の防災に自治会などと協力して行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態の変化に伴い医療処置や転倒などのリスクがある事を説明し同意を得るように努力をしている。入居時にも文章にて説明・同意・捺印を得ている。	○	重度化に伴い今後家族とも小さい変化でも報告をし意志の疎通をはかり家族との良好な関係を構築しておくよう努める。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック等で異常があれば専用の記録用紙に記入後訪問看護師に連絡。場合によって往診医の支持をもらい迅速に対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や副作用まで把握していない職員もいる。	○	職員全員が確実な服薬支援ができるように勉強し、薬は変わった時などの連絡、申し送りをさらに確実にする。合わせて家族にも服薬状況を報告するよう努める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	必要な利用者には排泄表で記録をつけている。便秘を防ぐ為に日頃より水分・乳製品・食物繊維の豊富な食品摂取を心がけている。便秘時は、腹部マッサージなどを実施。それでもなお便秘が解消されなければ主治医の指示により下剤や坐薬を使用している。	○	日頃から過度の運動不足にならないように軽い体操など計画的に時間を決めて職員と一緒に実施をしていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアを行い。必要な方は週1回の往診医にかかっている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れたメニューを心がけ毎食時残食料・水分摂取量を記録している。食事時間はできるだけ個別に対応できるよう努力をしている。なお禁忌食品のある人へは個別メニュー、嚥下困難の人へはミキサー食を手作りしている。		必要な方には管理栄養士による個別指導を行なう等実施して行きたい。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者。職員が毎年インフルエンザ予防接種を受けている。手洗い・うがい・消毒など日頃から感染症の予防策を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチン周りの清潔を第一にフキン・おしぼりは毎食後殺菌している。食材を作り置きしない。冷蔵庫内の管理にも神経を使って安全管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地内の植木の手入れは定期的に地元の専門家へ依頼。近隣の要望にもなるべく応じトラブル回避に努めている。玄関周りの鉢植えや玄関内の生花も来訪者・利用者からも好評いただいている。	○	未だ反対ののぼり旗がはためいている中で生活はストレスがかかる。けれども周辺を少しでも心地よい空間に変えようと花を植えたり明るい照明をつけたりと日々努力を行っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部には季節の花や写真を飾って潤いのある空間を演出している。コンテスト出品後の菊を毎年貸し出してくれるボランティアさんのいて落ち着いた空間で職員も利用者も穏やかに生活ができる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の並び合わせには特別に気を配っており、利用者にとって心地よい環境を提供している。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年慣れ親しんだ家具や思いで深い品々を配置することによって落ち着いた安心感のある生活空間を家族の協力も得て実現している。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>悲願の冷房を設置できたことよって高齢のご入居者に必要な室温管理がやっと実現できた。これまでのプロセスは決して忘れてはならない貴重な経験になった。</p>	○	<p>近隣と法人本部で冷房(エアコン)室外機の騒音測定を定期的に実施し基準地を超えていないか点検を行なう予定。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>常時車椅子をしようされる方も多くなったので通行の妨げにならないような通路の確保に努めている。必要に応じて浴室や脱衣場に手すりを設置している。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>個別対応して混乱や失敗を防ぐ努力をしている。カレンダーや新聞で日付けを確認したり写真で記憶を記録したり必要な手助けで自立支援を行なっている。</p>	○	<p>重度化でそれぞれの意向より職員の都合で介護しないように自戒していきたい。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>外回りの植栽やテイルは専門家に依頼しベランダではプランターで花や野菜を職員・利用者一緒に育て共感している。</p>	○	<p>テラスの活用で四季の花育み季節の旬な野菜を収穫し生活意欲がさらに向上するように支援していきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

平成17年2月の開所以来近隣とは未だに存続について前面和解していない。この夏は時間がかかってしまったが行政・法人・運営推進会議のメンバー・ご家族の支援もいただきようやく悲願の冷房を設置することができた。この件を通して地域といい意味で思いを戦わせる事ができひとつの交流が生まれたのは評価していただけたと思う。今後は少しでもグループホーム運営を理解していただけるように、それには地域認知症介護の拠点になるよう一層励んで日々のケアを充実したものへと変えていきたい。